

キャラクター名	プレイヤー名
天野 あかり	

シンドローム	エンジェルハイロウ	ワークス	FHチルドレンA	カヴァー	高校生
	エンジェルハイロウ				
オプション		年齢	16	性別	女
覚醒	無知	衝動	自傷	初期侵食率	36%
出自	安定した家庭	経験	大成功	邂逅	探求

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	24
肉体	0	1	0			1	行動値	9
感覚	6		0			6	(非装備時)	9
精神	2		0			2	戦闘移動	14
社会	0		1			1	全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	2		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: FH	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ツツカ	白兵	6r-3	8	16		攻撃力+【肉体】した場合、侵食値+2

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
ウェポンケース	

合計装甲:	0	合計回避:	0
ロイス			
対象	感情(pos)	感情(neg)	消費
[54] 装備者/アイテムユーザー	P	N	
ピアニスト	P 傾倒	N 隔意	
オーヴァード	P 幸福感	N 嫌気	
	P	N	
	P	N	
	P	N	
	P	N	
	P	N	
最大財産P:	2	残り財産P:	

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
陽炎の衣	3	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果: 隠密化、Lv回/1シーン								
光芒の疾走	3	1	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果: 戦闘移動、Lv回/1S								
光の舞踏	1	2	メジャー/リアクション	武器	-	-	-	
効果: 白兵判定を【感覚】で置換								
見えざる死神	5	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果: 隠密時、判定+1D&攻撃力+Lv×3								
コンセントレイト	2	2	メジャー	-	-	対決	-	
効果: C値-Lv								
デススターカー	7	-	メジャー	至近	自身	常時	リミット	
効果: 隠密時、攻撃力+Lv×4								
トラッパー	1							
効果: 隠密攻撃時、攻撃力+2D								
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

何かをすきになりたいFHチルドレン。外面を気にする親が習う前に慣れる隙すら与えず習い事を辞めさせた経験から「ヒトは自分が向いているものじゃないと好きになっちゃいけないんだ」という考えに至る。その呪縛により何かを好きになるためには才能がなければいけないと思いついており、何をとってもいまひとつな彼女にはおおよそ好きなものが存在しない。勉強やおしゃれなど、努力の果てに才能の芽が出る類いは成果が出る前に向いていないと遠ざけて、味の好みや人間関係など、努力なしに嗜好が目覚める類いはこんなのは好きになる条件を満たしていないと遮断する。勝手に条件を付けておきながらその条件を満たすか精査する前に検査試験を辞退する彼女には、天賦の才に恵まれた何かでなければそれを好きになるチャンスすら訪れないだろう。そう、まるで神から与えられたかのような才能に出会わなければ。

自分の背丈ほどある大剣の幻影を地面に突き刺しにくると回す。幻影に目を引かせているうちにその姿を眩まし、瞬間に間合いを詰めて硝子色の太刀で斬りつける。彼女には、オーヴァードの戦闘における才能があるのは明らかだった。剣を握ったその日からその実力は教官役のFHエージェントに匹敵し、オーヴァード適性があるかどうかのPATCHテストを受けるだけであったはずの彼女は即日FHに勧誘されることになった。人を斬りつけ殺すことには不思議と違和感がないどころか、次から次に新たな戦闘方法が頭に浮かぶ。それなのにどうしてだろう。彼女はオーヴァードが蔓延る裏の世界を、自らの手で紡がれる多彩なエフェクトの数々を、自分に才能を与えてくれたレネゲイドウイルスを好きにはなれなかった。

「上手いかなきゃ楽しくなくて、センスとか才能があるから順調に進んで、それを好きになる」
 どうやら自分に言い聞かせていたその文言は真実ではないらしい。それならば、みんなはどうやって何かを、誰かを、この世界を好きになっているんだろう。この自分の才能をいつか好きになれるかもしれない。いつまでたっても好きになれなくて進んだ先にすきなものを見つけれられるかもしれない。「なにかをすきになる」という大きな大きな欲望を叶えるため、そして自分の世話をしてくれる好きなセルメンパーたちのため、今日も彼女はFHの一員として己の才覚を振り出す。